

開会の辞

東京医科歯科大学（歯学教育認証評価検討 WG 座長）荒木孝二

皆さんおはようございます。今、司会の一戸先生からお話がありましたように、新聞によると 20 年に一度の大雪だということになっております。このように非常に天候が悪い中、多くの方々にお集まりいただき大変ありがとうございます。本事業の目的等につきましては後ほど詳しく説明いたしますが、昨年から今回の歯学教育認証評価事業が始まりまして、一年に一度その一年間の事業報告をさせていただくことにしております、今年度は本日举行うことになりました。

事前の申込で、北から南まで歯学の実務関係、歯学教育に関わっておられる方々、および企業の方々等、多くの皆様にお集まりいただきありがとうございます。まだ事業は 2 年目も終了していない時期ですが、今年度の分につきましては活動報告をさせていただきたいと存じますので、先生方のほうから何かございましたら、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

本日受付でお渡ししましたスケジュールにありますように、お忙しい中文部科学省高等教育局医学課長の袖山様と歯学教育の改善・充実に関する調査研究協力者会議座長の江藤一洋先生にご出席いただきまして、はじめにご挨拶をいただくことになっております。また、イギリスから General Dental Council (GDC) の Policy Manager の Patrick Kavanagh 先生、アメリカから Commission on Dental Accreditation (CODA) の Director の Sherin Tooks 先生に来ていただきまして、英国と米国の歯学認証制度について説明していただく予定になっております。現在まだ見えられていませんけれども、東京医科歯科大学歯学教育システム研究センター教授の奈良信雄先生に、すでに始まっております医学教育の質の保証という事で、今、医学教育の認証評価についてはどこまで進んでいるかという説明をお願いしております。また、独立行政法人大学評価・学位授与機構の特任教授でおられます川口先生には、大変お忙しい中ご参席いただき、大学の認証評価全体におけるコンセプトあるいは必要性、それから今後について説明していただくことになっております。メニューが盛りだくさんでございますが、これらの講演を全て聞いていただいた後に、私たちの歯学教育認証評価ワーキングの方で作成した、歯学教育認証評価の基準とその認証評価の実施要項につきましてご説明いたします。実はもうすでに 1 回目のトライアルが始まっておりますので、そのことにつきましても先生方にご紹介させていただきまして、その後御出席の皆様よりご意見をいただきたいと思っております。

今から午後 5 時までシンポジウムの時間はかなり長丁場でございますが、皆様ご静聴頂きまして、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

まずは、本日のご出席ほんとうにありがとうございました。